

# 魔法のプロジェクト 活動報告書

報告者氏名:大塚 まり 所属:東村山市立萩山小学校

記録日:2023年 2月18日

キーワード:心理的な安定、学習意欲、人間関係の形成

## 【対象児の情報】

○学年 小学6年生

○障害名 ADHD

○障害と困難の内容

- ・学習への参加や課題への取り組みが難しい。
- ・気持ちのコントロールが難しい。(学習面、他者とのかかわり等において)
- ・自身の思いが通らない時に、他者への攻撃または自傷行為となってしまう。

## 【活動目的】

○当初のねらい

- ①自分に合った学び方を見つけ、学習への意欲や楽しさを感じ、学習に取り組む。
- ②気持ちの安定を図り、適切な他者とのかかわりを身に付け、友達との活動を楽しむ。

○実施期間 2022年4月～2月現在

- ・実施者 大塚 まり
- ・実施者と対象児の関係 特別支援学級担任

## 【活動内容と対象児の変化】

○対象児の事前の状況

- ・4年生まで通常学級在籍。
- ・特別支援教室に小学1年から通い、4年生まで通っていた。
- ・5年生から特別支援学級（自閉症・情緒障害）に転入。

### 学習面

・当該学年の学習において、対象児童は苦手な教科への参加が難しく、5年時は別室で工作をすることが多かった。別室で過ごす時には担任または担任以外の特定の大人が必ず個別に対応していた。

#### ▼5年時の授業参加状況

参加可能	体育、図工、理科、総合、学活
参加が難しい	音楽、国語、算数、社会、外国語、家庭科、道徳

※6年になって参加で教科、時間は増えてきている。

- ・教師の話や学習内容を理解できることも多いが、覚えておくことが難しく、対象児は「分からない」「できない」と思ってしまう。
- ・「書くことは嫌いではない。板書はできるよ。」と話すが、その時の学習内容や精神状況で決めている。
- ・関心のある学習内容は、意欲的で発表をする。
- ・5年時はテストをほぼ受けられなかったが、得意な理科のみテストを受けられることもあった。
- ・昨年度から Chromebook を使い始め、作ったスライドや自分が撮影した動画を友達に紹介することを楽しみにしている。(やりがいを感じている様子。)
- ・Chromebook の文字入力で、「ローマ字入力を練習したい。」と話していたが、入力に時間がかかり、本人の希望でかな入力にしている。

**行動面**

- ・クラスのリーダー的存在で、遊びを通して友達関係を築くことが得意である。(通常学級とも交流がある。)
- ・自分が友達より優位な状況であれば、他者と良好なかかわりができるが、友達が優位な状況になると、その友達に言葉で攻撃する。
- ・自分の思いが通らない時、友達とけんかになった時、教師に注意を受けた時に、校外へ飛び出してしまう。
- ・友達とのけんかでは、相手に暴言・暴力で攻撃し、高ぶった感情を抑えられない時には周りの物にあたってしまう。
- ・対象児は、高ぶった感情を自分で抑えられない時は、教師が対象児の行動を力尽くでも止めてほしいと話していた。(本当は人に危害を加えたくないが自分で抑えられない。)
- ・見通しの立たない活動への不安が強い。(特に運動会や音楽会)
- ・音に対する過敏さがあり、大人数のざわざわした様子・音や太鼓の音に「頭が痛くなる」と話す。

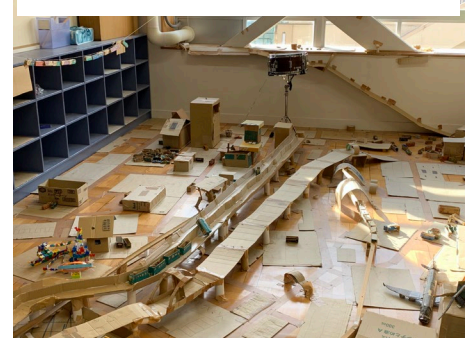
**その他**

- ・WISC - IV : FIQ 96 VCI 105 PRI 113 WMI 76 PSI 83
- ・将来は「特別支援学級の先生になりたい」という夢をもっている。

▼本人の強み・得意なこと、弱み・苦手なこと (本人の話より)

強み	工作 (手先が器用)、運動、アイデアを形にできる 低学年とのかかわりが上手い (慕われる)
弱み	面倒なことに取り組めない、ゲームや工作に支配 されて勉強に取り組めない、イライラすること

▼段ボールで作った街の様子



**〇活動の具体的内容と対象児の事後の変化**

①自分に合った学び方を見つけ、学習への意欲や楽しさを感じ、学習に取り組む。

ねらい	活動内容	対象児の変化 (◇変化 ◆課題)
<p>・本人のペースに合わせて、見通しをもって安心して教室で学習に向かう。</p>	<p>〇1週間の予定を教師と確認し、教室で参加可能な学習を決める。</p> <p>〇個別学習時間を設定し、自分に合った学習アプリを使って、自分のペースで学習を進める。 【使用学習アプリ】</p>	<p>◇1週間の学習に見通しをもつことができ、自分で参加すると決めた学習に参加できることも増えている。</p> <p>◇1週間の参加状況を振り返ることで、本人と得意・苦手な学習の傾向をつかむことができた。</p> <p>◇これまでの学習の復習として活用することはできた。(下学年の学習) 特に、日本地図パズルや漢字の学習のアプリは取り組みやすく、自分から取り組む様子が見られた。</p> <p>◆該当学年の学習については学習アプリで予習または復習に取り組むことは難しかった。解答を選択すればよいのだが、正解が分からないと取り組めない。</p>

	<p>○45分の授業に見通しがもてるように、苦手な算数の学習については、ワークシートを活用する。</p>	<p>◇45分で取り組む内容を、B4 1枚のワークシートに整理しておく、その時間の学習への見通しがもてて、学習に取り組めることも増えた。</p> <p>▲算数ワークシート</p>
--	--	---

<p>・得意なスライド作り・動画編集を生かして、「調べる」「まとめる」「伝える」機会を設ける。</p>	<p>○外国語や社会科、総合的な学習の時間などで、国や人物など学習内容に沿ったテーマを Google「スライド」を使ってまとめ、他者に伝える。</p>	<p>◇「スライド」を作ることは得意で、外国語での「おすすめの国の紹介」など調べたことをまとめたり、調理実習の様子を動画で撮影し、編集して発表したりすることができた。</p> <p>◇人に伝えることが得意で、友達からの対象児のスライドや動画発表への評価が高いため、対象児が発表することが増えている。</p>
---	---	---

②気持ちの安定を図り、適切な他者とのかわわりを身に付け、友達との活動を楽しむ。

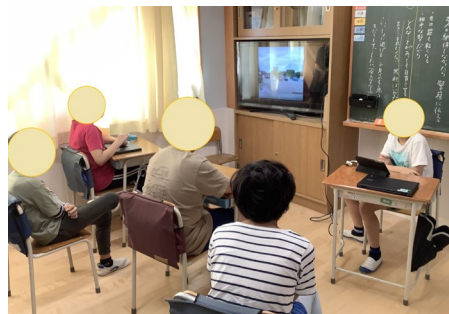
ねらい	活動内容	対象児の変化 (◇変化 ◆課題)
<p>・自分の気持ちを伝え、他者と安心して気持ちを共有する。</p>	<p>○『DropStep+ByTalk』で担任と授業のことや家庭での出来事、その時の気持ち等についてやりとりする。</p>	<p>◇長期の休み中は、宿題の報告などやり取りをすることで夏休みの宿題を計画的に進めることができたり、家での様子など他愛もない話をやりとりしたりする楽しさを感じることがみられた。</p> <p>◇トラブルになりそうな時に、状況を報告することもあり、気持ちの安定につながれることもあった。</p> <p>◆チャットでのやりとりが2学期後半から減った。</p> <p>⇒教室で過ごす時間や通常学級の友達と過ごす時間が増え、直接話をしたり、教師だけでなく友達と話をして楽しんだりする様子が増えている。</p>

・人との関わりの楽しさや活動への意欲を高める。

○気持ちを落ち着かせるために、好きなもの・好きなことを調べたりまとめたりする。



○クラスの友達に調べまとめたことを動画で発表する。



▲動画発表の様子

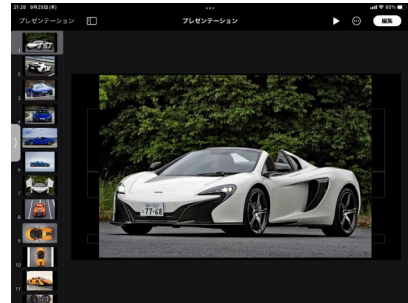
○人との関わりを広げ、自信をもてるように、通常学級の友達にも調べまとめたことを発表する。



▼通常学級での啓発授業



◇好きな車やキャンプについて調べ、まとめたり、工作で作品を作ったりすることで、イライラした気持ちを落ち着かせることが増えている。



▲Keynoteで作ったプレゼンテーション

◇クラスの友達に週に1・2回発表するために、動画を編集することに集中して取り組む姿が見られた。

◇動画発表のネタを友達から募集し、友達からのリクエストに応えるなど、動画発表を通して友達との良好な関わりが増えている。また、友達に発表することに自信や満足感を感じ、発表そのものが、友達との良好な関わりにつながっている。

◇5年生の時は通常学級の友達と関わることに抵抗を示していたが、特別支援学級の紹介動画を発表したことをきっかけに、交流が始まり、移動教室や社会科見学、運動会等での様々な友達との関わりへと広がっている。現在は授業交流（体育）に一人で参加することもできている。

・担任や保護者以外の他者に考えや気持ちを伝え共有する。

○大学院生との『zoom』を使った相談会の時間を設定し、普段の生活や学習の相談、好きなことに関する話をする。



普段の zoom の様子▲  
(作業をしながらやりとり)

◇以前は人と関わることに緊張や抵抗があったが、相談会を通して、大学院生との関わりを楽しみにし、友達との関わりや学習に関する相談をしたり、趣味の話をしたりして、気持ちを共有する場面が見られた。

◇大学院生との交流会を行ったときには、企画・進行などを引き受け、スムーズに会を進めることができた。

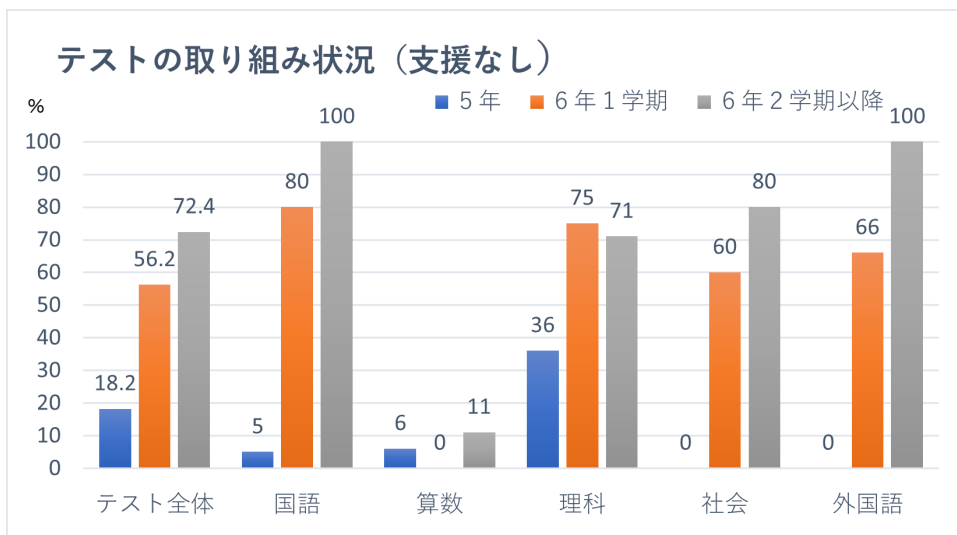
⇒様々な活動への意欲につながり、対象児の自信にもつながっている。

**【報告者の気づきとエビデンス】**

**○主観的気づき及びエビデンス(具体的数値など)**

①5年生ではほとんど取り組めていなかったテストに取り組むことができるようになってきている。

**【テストへの取り組み状況】**



5年生	6年1学期	6年2学期～
特定の教科を個別に取り組む。 (理科・漢字50問テストなど)	教室または個別に取り組む。 個別:主に算数・漢字50問テスト 教室:上記以外の教科	教室でほとんどのテストに取り組む。 ※苦手意識の強い算数は、個別に取り組む。

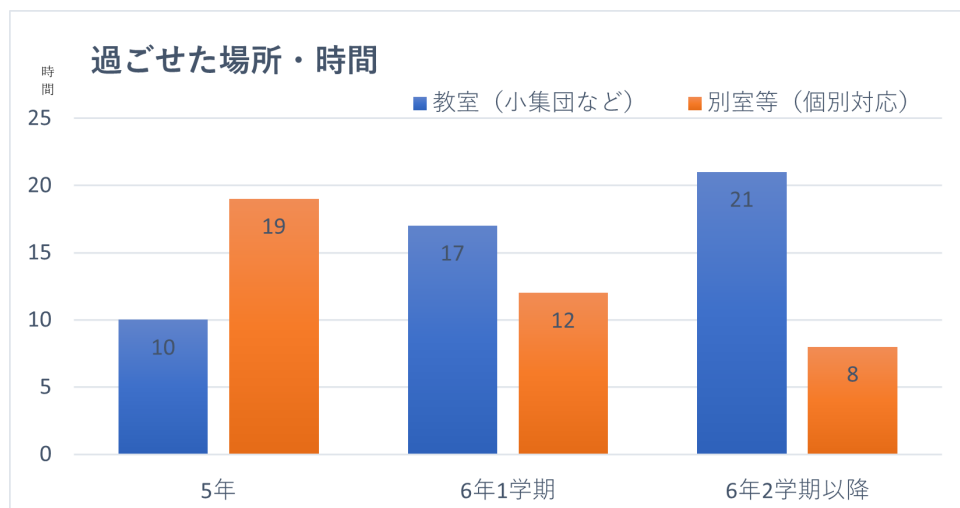
②6年生前半は個別に対応する時間が必要であったが、2学期後半から教室で過ごすことが多くなっている。

**【学習への参加状況】**

5年生	6年1学期	6年2学期～
・別室での個別対応(常時大人が付く) ⇒5分程度の個別学習 他の時間は工作等 ・図工室での工作(図工専科の空き時間)	・教室での学習(途中で別室へ移動) ・別室での個別対応 (一人で過ごす時間も増える)	・教室での学習時間が増え、45分教室で過ごすこともあり。 ・別室での個別対応は減ってきた。



【学習への参加状況(過ごした場所・時間)】



③友達に対する関わりが友好的になり、友達を励ましたり、友達のすごいところを認めたりする様子も見られた。

【ふれあい月間アンケートより】

学級児童からのコメント 「Aくんが、走っている時に『がんばれ!』と応援してくれてうれしかった。」

④対象児へのアンケートから、iPad を使って学習面でも生活面でも「よかった」「これからも使いたい」とのコメントがあった。

【iPad を使って…1年間のふりかえりアンケートより】

学習面

- ・漢字学習アプリは良かった。分かりやすかった。
- ・日本地図アプリも頑張って取り組めた。これからもやってもいいと思う。
- ・これからはタイピングを勉強したい。(ローマ字入力)

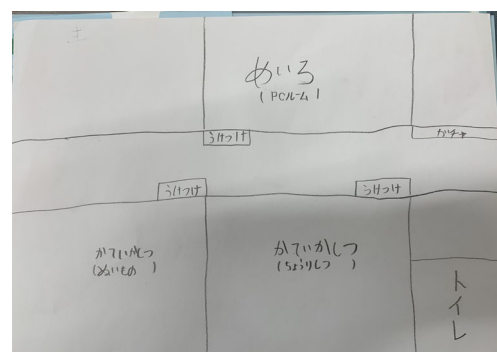
生活面

- ・メモアプリは結構使えた。(思いついたアイデア・お楽しみ会の企画・準備についてメモに書いていた。)
- ・動画編集アプリは、授業や行事、家での様子などを編集してみんなに発表できて楽しかった。
- ・クラスの友達が、作った動画を見て笑ってくれたり、おもしろいと言ってくれたりするから楽しかった。
- ・動画の編集は続けたい。

○その他エピソード(画像などを含めて)

◇卒業プロジェクト企画「1～5年生にお礼をしよう!」

今回は「6年生を送る会をしてくれた全校のみんなに、お礼をしてあげたい!」という考えから、1～5年生の友達が楽しめるアクティビティを用意する企画を考え、準備をしている。みんなのために…という気持ちが誰よりも強く、特別支援学級では、様々な場面でお楽しみ会等の会を企画・運営してくれている。今回は、特別支援学級だけでなく全校を対象にお礼をしたい気持ちを、どのように伝えるか企画から考えている。また、学級の友達に協力依頼の話や通常学級の6年生に協力してもらうために…と考える姿も見られた。



▲お礼プロジェクトの活動図案